



# 冊子印刷物の構造や文字組版について確認しよう

## InDesignはDTPで使用されるページレイアウトソフト

InDesignは、Adobe (アドビ) が開発したページレイアウトソフトです。ページの管理にすぐれていて、ノンブル (ページ番号) や目次などの作成機能があり、雑誌や書籍、カタログなどの冊子印刷物を手軽に作成できるのが特徴です。また、文字組みの機能が充実しており、美しい文字組版ができます。

IllustratorやPhotoshop、Acrobatなど、ほかのAdobeのソフトとの連携も取りやすく、これらと組み合わせて効率よくデザインを行うことができます。

本書では、Chapter 1~4の基礎編で基本操作を確認した後、Chapter 5~8の実践編で以下の4つの制作物を作成しながら、さまざまな機能について学習します。

### 本書で作成する制作物



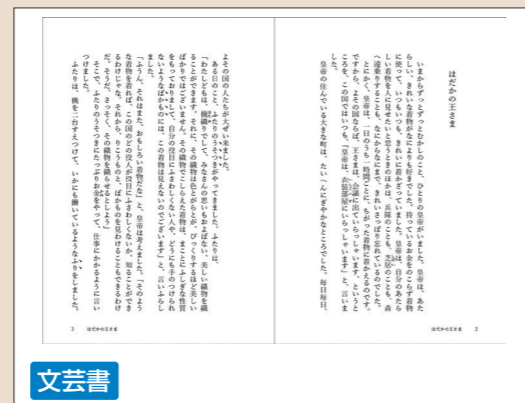
ファッション誌



レシピブック



旅行情報誌



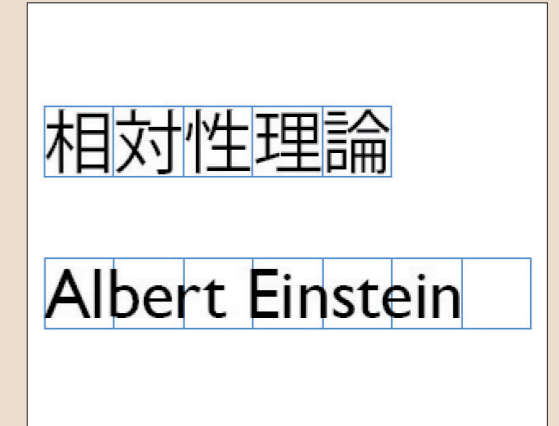
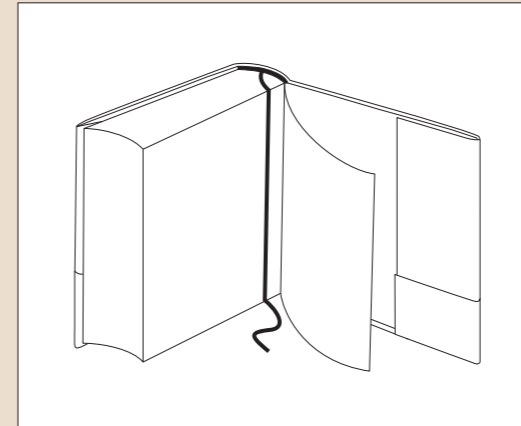
文芸書

## 冊子印刷物の構造や文字組版について理解する

雑誌や書籍などの、ページを構成する要素の名称と役割を知ることは、InDesignでの作業時に出てくる各種設定にも役立ちます。また、本文のページ以外に、外装に関する要素についての理解も大切です。

文字組版を得意とするInDesignにおいて、組版用語の理解は欠かせません。和文文字と欧文文字の構造の違いや、字送りと字間、行送りと行間などのしくみの理解は、InDesignで字間調整をする際に役立ちます。

### 書籍の構造、和文文字と欧文文字の構造

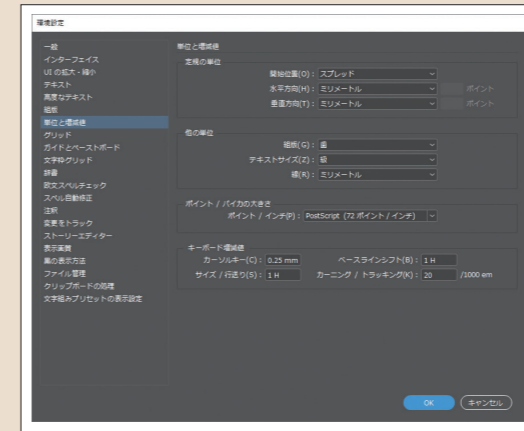


## 作業前に確認したい環境設定やカラー設定

InDesignのさまざまな設定は、**環境設定**により決まります。多くの設定が用意されていますが、まずは基本となる単位の設定を確認しましょう。また、**カラー設定**では

カラーマネジメントを行うことができ、モニターやプリンターなど異なるデバイス間で、カラーの一貫性を保つことができます。

### 環境設定とカラー設定



# InDesignでできることを知ろう

InDesignは、冊子印刷物を作成するページレイアウトソフトです。  
ここでは、InDesignで何ができるのかを確認しましょう。

## InDesignとは

InDesignは、Adobe (アドビ) が開発したページレイアウトソフトで、主に冊子印刷物を作成するエディトリアルデザイン分野で利用されています。同じく印刷物の作成で利用されるIllustratorとの違いは、ページの管理にすぐれていて、ノンブル(ページ番号)や目次などの作成機能があり、雑誌や書籍、カタログなどの冊子印刷物を手軽に作成できる点です。また、文字組みの機能が充実

しており、美しい文字組版ができます。IllustratorやPhotoshop、Acrobatなど、ほかのAdobeのソフトとの連携も取りやすく、これらと組み合わせると効率よくデザインを行うことができます。また、ビジネスだけでなく、InDesignを使用している個人ユーザーも増えており、ポートフォリオや同人誌の作成などでも幅広く利用されています。

さまざまなツールやパネルが用意されており、冊子印刷物を手軽に作成できる

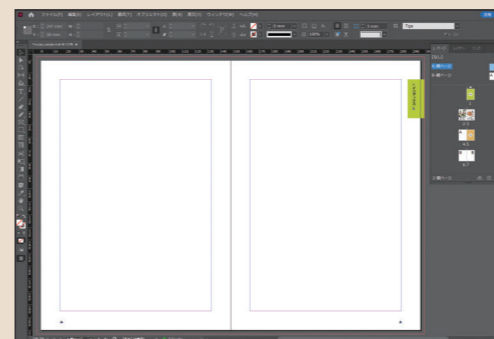


## ページの管理ができる

InDesignには、ページを管理する[ページ]パネルがあり、冊子印刷物を構成するページを効率よく管理できます。InDesignで扱うページには、共通するオブジェクトをレイアウトする親ページと、固有のレイアウトを行うドキュメントページがあります。親ページとリンクしたド

キュメントページには、親ページにあるオブジェクトがコピーされます。親ページを修正すると、リンクされたドキュメントページも更新されます。親ページには、ノンブル(ページ番号)や柱(セクション)などを作成します。

親ページ (56ページ参照)



親ページにリンクしたドキュメントページ (57ページ参照)



## 美しい文字組みができる

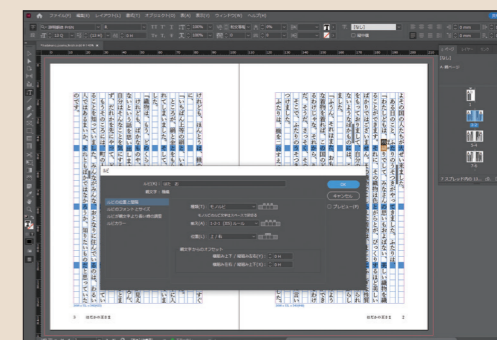
InDesignは、文字組みの機能が充実しており、美しい文字組みができます。字間調整や文字組みアキ量設定、禁則処理のほか、縦中横や縦組み中の欧文回転、ルビや圏点

など、文字組みに関する機能が豊富に用意されています。文字や段落の設定は、コントロールパネルや[文字]パネル、[段落]パネルで行います。

旅行情報誌 (184ページ参照)



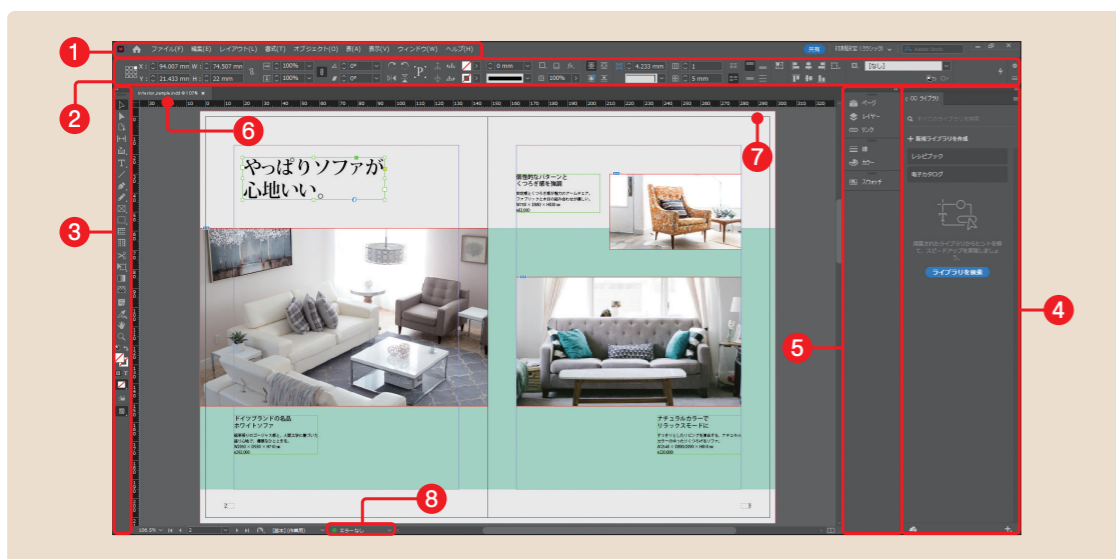
文芸書 (234ページ参照)



# InDesignの画面構成

InDesignでファイルを表示したときのワークスペース（画面構成）について確認し、各部の名称と役割を覚えましょう。ワークスペースは、リセットして整えたり、切り替えたりできます。

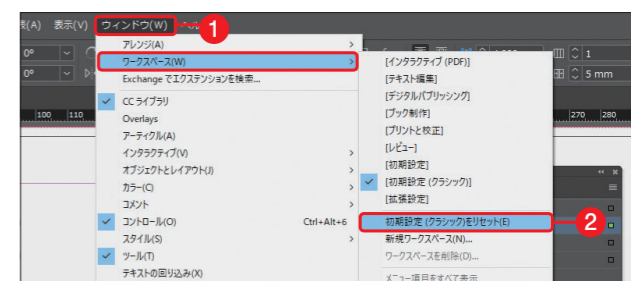
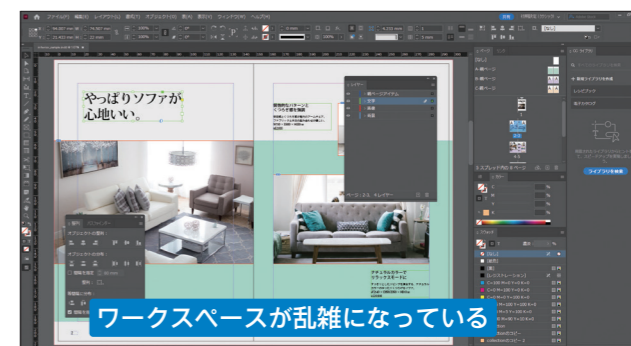
## InDesignのワークスペース（画面構成）



①メニュー	ファイルを開く、InDesignを終了するなど、さまざまなコマンド（命令）を実行します。Macでは、InDesignの画面外のメニューバーにメニューが表示されます
②コントロールパネル	選択したオブジェクトを編集する機能がまとめられています
③ツールパネル	作業をする際に使用するツール（道具）が格納されています
④パネル	ページやレイヤー、テキストなどを編集するための目的別の機能がまとめられたウィンドウです
⑤ドック	パネルをアイコン形式で格納したものです
⑥ドキュメントタブ	ファイル名や表示倍率が表示されます。複数のファイルを開いている場合、クリックして、表示するファイルを切り替えることができます
⑦裁ち落としガイド	商業印刷物を作成する際、裁ち落とし（37ページ参照）を付ける位置を示す赤いガイドです
⑧ライブプリフライト	ドキュメントのエラーを検出します。エラーがある場合は、赤い丸が表示されます

## ワークスペースをリセットする

① さまざまな作業をするうちに、パネルは乱雑になりがちです。そのようなときは、ワークスペースのリセットが便利です。メニューバーの[ウィンドウ]をクリックし①、[ワークスペース]→[〇〇をリセット]をクリックします②。ここでは、事前に[初期設定(クラシック)]ワークスペースを設定していたので、[初期設定(クラシック)をリセット]をクリックします。



② ワークスペースがリセットされ、乱雑になったパネルが整いました。



本書では[初期設定(クラシック)]ワークスペースで解説しています

ワークスペースとは、パネルやウィンドウなどで構成される画面構成のことで、目的別にさまざまなワークスペースに切り替えることができます。本書では、[初期設定(クラシック)]ワークスペースで解説していますが、別のワークスペースに切り替えて、パネルの並びがどのように変わるか見てみましょう。

[インタラクティブ (PDF)]  
[テキスト編集]  
[デジタルパブリッシング]  
[ブック制作]  
[プリントと校正]  
[レデュ]  
[初期設定]  
[初期設定 (クラシック)]  
[拡張設定]

# 文字の種類やサイズを設定しよう

文字の種類やサイズの設定は、[文字形式コントロール] パネルや [文字] パネルで行います。  
ここでは、基本的な文字の設定を見てみましょう。

## テキストを入力する

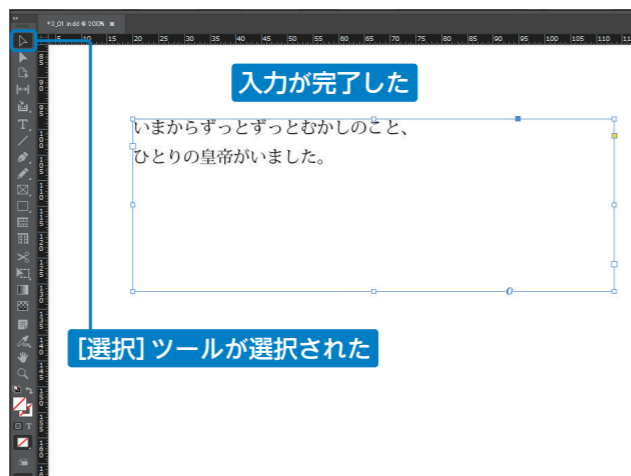
- 1 ツールパネルから [横組み文字] ツールをクリックします ①。



- 2 画面上をドラッグしてテキストフレームを作成し、テキストフレーム内にカーソルが表示されたら ①、文字を入力します ②。

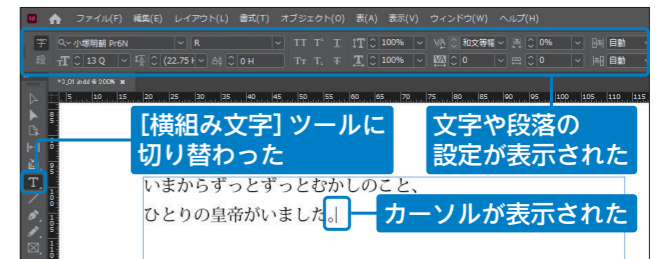
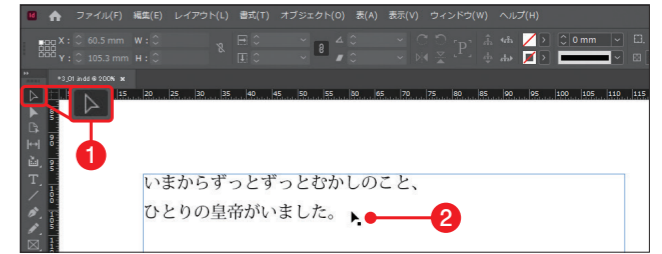
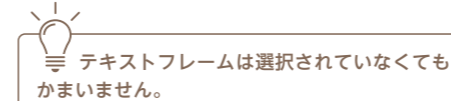


- 3 入力後、[Esc] を押すと入力が完了し、テキストフレームが選択された状態になります。ツールパネルでは、[選択] ツールを選択した状態になります。



## 文字のフォントとフォントサイズを設定する

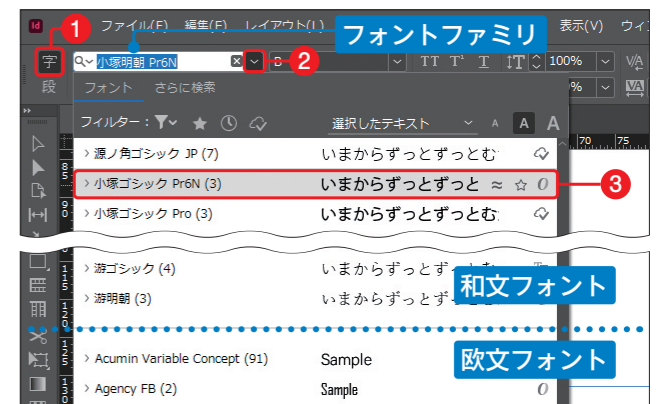
- 1 [選択] ツールをクリックし ①、テキストフレームをダブルクリックすると ②、テキストフレーム内にカーソルが表示され、[横組み文字] ツールに切り替わります。また、コントロールパネルには、文字や段落の設定が表示されます。



- 2 メニューバーの [編集] をクリックし ①、[すべてを選択] をクリックして ②、テキストフレーム内のテキストをすべて選択します。



- 3 [文字形式コントロール] をクリックし ①、文字関連の設定を行います。[フォントファミリーを設定] の ▼ をクリックし ②、リストからフォント (書体) をクリックします ③。

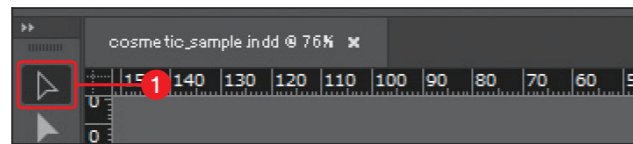


# オブジェクトを移動・コピーしよう

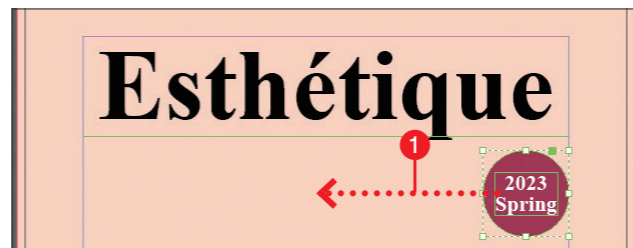
選択したオブジェクトは、移動やコピーが行えます。ドラッグしたり、[移動] ダイアログボックスで数値を指定したり、矢印キーを使ったりといろいろな方法があります。

## オブジェクトをドラッグして移動・コピーする

- 1 ツールパネルで[選択]ツールをクリックします①。



- 2 移動したいオブジェクトを選択してドラッグします①。



💡 Shift を押しながらドラッグすると、移動方向が水平・垂直・斜め45°に制限され、まっすぐ移動できます。

- 3 オブジェクトを移動できました。



💡 Alt (option) を押しながらドラッグすると、移動ではなく、コピーになります。

## スマートガイドを移動位置の目安にする

オブジェクトをドラッグすると、別のオブジェクトの中心やエッジ(端)を示すスマートガイドが表示されるので、移動位置の目安にできます。



## 移動ダイアログボックスで数値を指定して移動・コピーする

- 1 オブジェクトをクリックし①、ツールパネルの[選択]ツールをダブルクリックして②、[移動]ダイアログボックスを表示します。



- 2 [水平方向]と[垂直方向]に数値を入力すると①、[距離]と[角度]が自動で計算されます。[プレビュー]をクリックしてチェックを入れ②、どのように移動するかを確認したら、[OK]をクリックして確定します③。



💡 [プレビュー]は、[OK]をクリックして確定する前に、確定後の状態を確認できる機能です。ほかのダイアログボックスにもあります。

- 3 オブジェクトを移動できました。[水平方向]に正の値を入れると右方向に、負の値を入れると左方向に、[垂直方向]に正の値を入れると下方向に、負の値を入れると上方向に移動します。



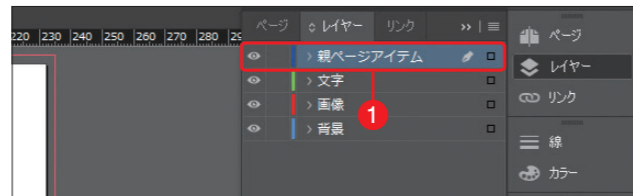
💡 手順②で[OK]の代わりに[コピー]をクリックすると、移動ではなく、コピーになります。

# ノンブルを作成しよう

ノンブルとは、ページ番号のことです。親ページにノンブルを作成すると、ドキュメントページでページ番号が表示されます。

## 親ページにノンブルを作成する

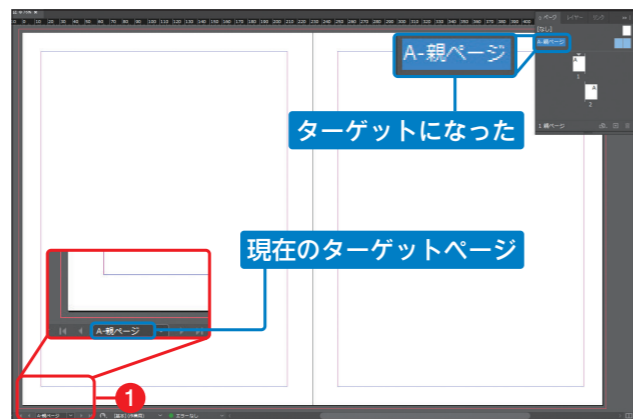
- 1 [レイヤー]パネルで[親ページアイテム]レイヤーをクリックします①。



- 2 [ページ]パネルを表示します(44ページ参照)。新規ドキュメントを作成後は、[なし] [A-親ページ]と、[新規ドキュメント]ダイアログボックスの設定に応じたドキュメントページ(ここでは1ページから開始で2ページ)があります。[A-親ページ]の名前をダブルクリックし、ターゲットにします①。



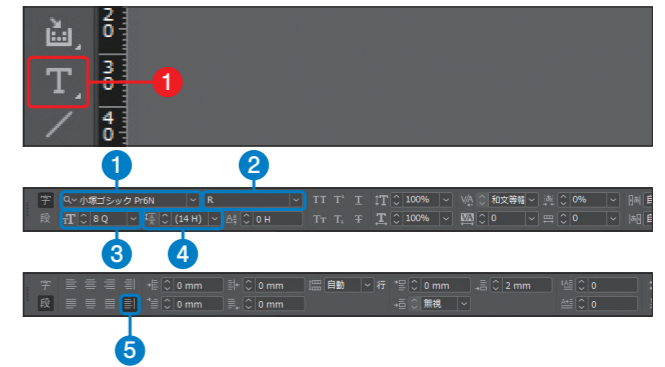
- 3 [A-親ページ]がターゲットになりました。[ズーム]ツールで左ページ下付近を拡大し(46ページ参照)、ノンブルを作成する位置がよく見えるように表示します①。



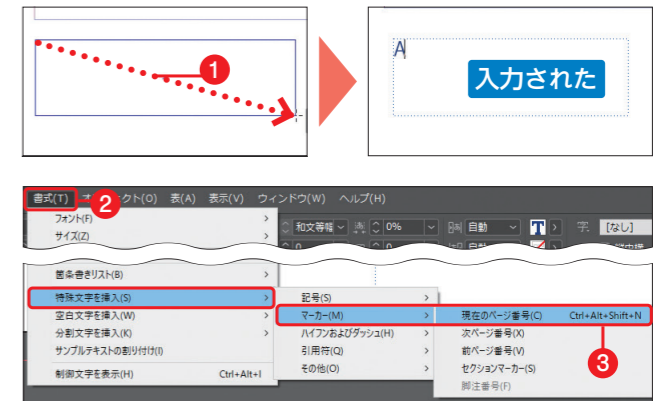
画面左下のページ番号ボックスでも、ターゲットページを確認できます。

- 4 [横組み文字]ツールをクリックし①、コントロールパネルで以下のようにテキストを設定します。

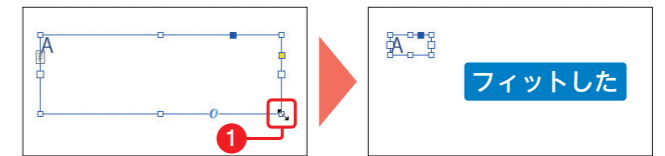
1 フォント	小塚ゴシック Pr6N
2 フォントスタイル	R
3 フォントサイズ	8Q
4 行送り	自動(14H)
5 行揃え	小口揃え



- 5 画面上をドラッグしてテキストフレームを作成し①、テキストフレーム内にカーソルが表示されたら、メニューバーの[書式]をクリックし②、[特殊文字を挿入]→[マーカー]→[現在のページ番号]をクリックします③。すると、テキストフレーム内に[A]と入力されます。これは、[A-親ページ]上で作業しているためです。

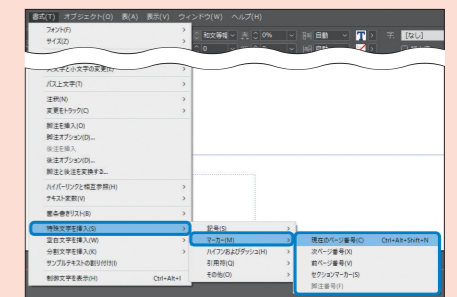


- 6 入力後、[Esc]を押すと入力が完了し、テキストフレームが選択された状態になります。テキストフレームの右下のハンドルをダブルクリックすると①、フレームがテキストにフィットします。



### 特殊文字の挿入

使用頻度が高い特殊文字には、[現在のページ番号]以外に、柱(セクション)の作成で使用される[セクションマーカー](241ページ参照)があります。[現在のページ番号]と[セクションマーカー]は、親ページ上で設定し、ドキュメントページで内容が表示されるしくみになっています。



# インデックスを作成しよう

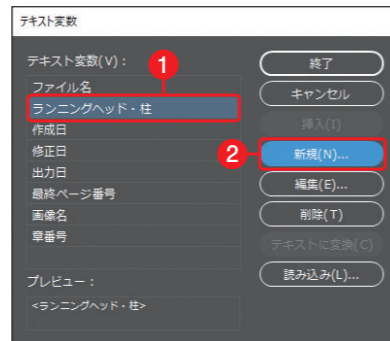
インデックスは、本文内容を検索しやすくするために小口側に付ける見出しで、ツメともいいます。ここでは、親ページにテキスト変数の機能を使って、インデックスを作成しましょう。

## テキスト変数を定義する

- メニューバーの[書式]をクリックして①、[テキスト変数] → [変数を管理] をクリックします②。

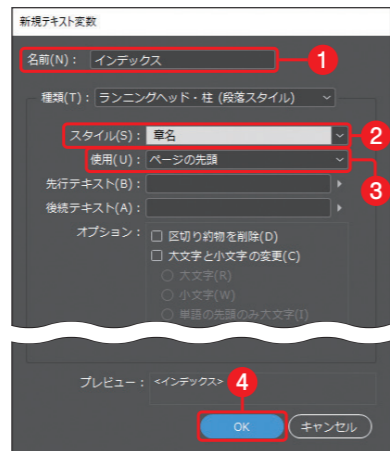


- [テキスト変数] ダイアログボックスが表示されます。[ランニングヘッド・柱] をクリックして①、[新規] をクリックします②。



💡 変数とは、任意の値を入れる箱のようなものです。ここでは、「インデックス」という箱に段落スタイル[章名]を適用したテキストを格納する設定をします。

- [新規テキスト変数] ダイアログボックスが表示されます。[名前] に変数名を入力し(ここでは「インデックス」)①、[スタイル] で155ページで作成した段落スタイル[章名]を選択します②。[使用] で[ページの先頭] を選択し③、[OK] をクリックします④。



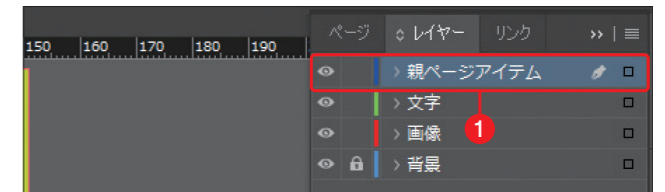
💡 [使用] で[ページの先頭] を選択すると、ページの先頭にある段落スタイルが適用されているテキストが挿入されます。ページにない場合は、前のページのテキストが挿入されます。

- テキスト変数「インデックス」ができました。[終了] をクリックします①。

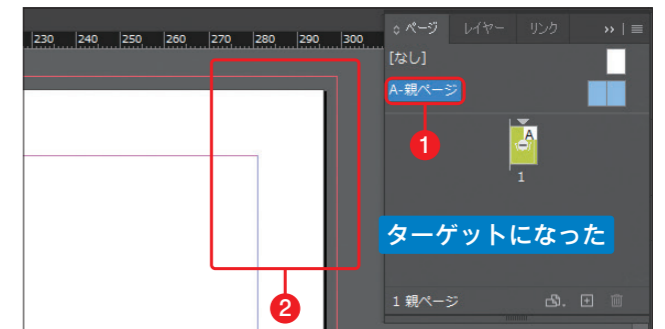


## 親ページにインデックスを作成する

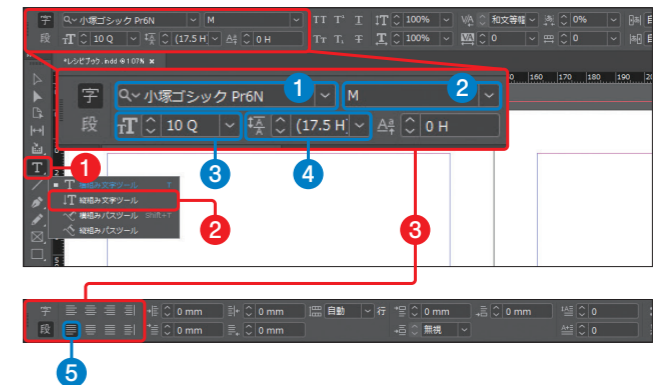
- [レイヤー] パネルで[親ページアイテム] レイヤーをクリックします①。



- [ページ] パネルを表示します(44ページ参照)。[A-親ページ] の名前をダブルクリックし、ターゲットにします①。[ズーム] ツールで右ページ上付近を拡大し(46ページ参照)、インデックスを作成する位置がよく見えるように表示します②。



- ツールパネルから[横組み文字] ツールを長押しし①、[縦組み文字] ツールを選択して②、コントロールパネルでテキストの設定をします③。



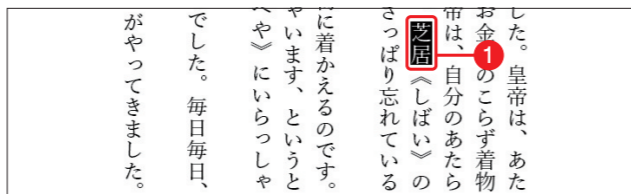
① フォント	小塚ゴシック Pr6N
② フォントスタイル	M
③ フォントサイズ	10Q
④ 行送り	自動(17.5H)
⑤ 行揃え	均等配置 (最終行左 / 上揃え)

## ルビをふろう

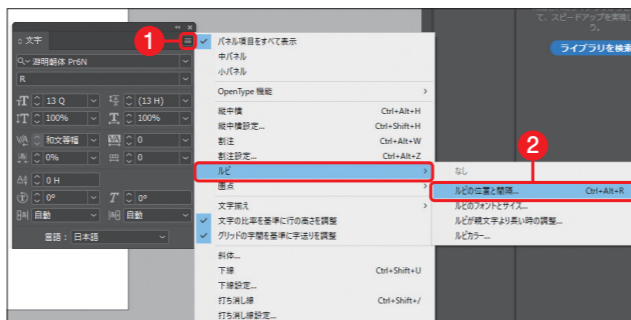
ルビとは、ふりがなのことです。  
親文字を選択し、かんたんにルビをふることができます。

## 親文字にルビをふる

- 1 **W**を押してプレビューモードにし(48ページ参照)、フレームグリッドを非表示にします。[縦組み文字]ツールでルビをふりたい親文字(ここでは、1ページ5行目下部の「芝居」)をドラッグして選択します①。

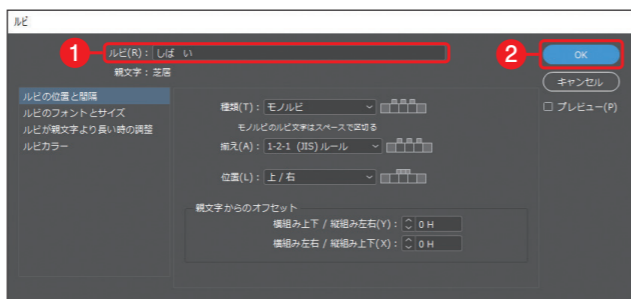


- 2 [文字]パネルを表示します。■をクリックしてパネルメニューを表示し①、[ルビ]→[ルビの位置と間隔]をクリックします②。



ルビの位置と間隔  
Ctrl (command) + Alt (option) + R

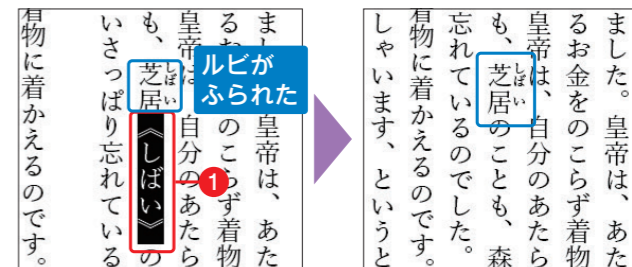
- 3 [ルビ]ダイアログボックスが表示されます。ここでは、「芝居」に「しばい」とふるので、[ルビ]に「しば」と「い」の間をスペースで区切って入力し①、[OK]をクリックします②。



親文字の各文字にふるルビを、モノルビといい、ルビをスペースで区切ります。各文字の読み方が明確な場合に使います。それに対し、向日葵(ひまわり)のような当て字の場合は、スペースで区切らないグループルビを使います。

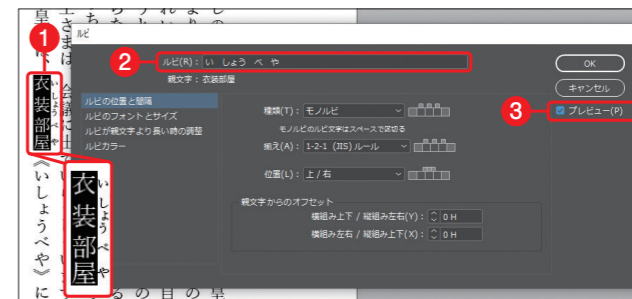
- 4 ルビがふられました。「《しばい》」をドラッグして選択し①、削除します。

本章のテキスト内で、芝居《しばい》とある場合、親文字が「芝居」で、割り当てるルビが「しばい」であることを示します。ルビをふったら、《しばい》は削除しましょう。

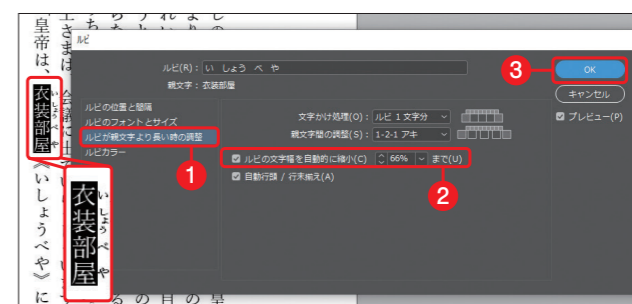


## 親文字より長いルビを調整をする

- 1 ルビをふりたい親文字(ここでは、1ページ9行目下部の「衣装部屋」)をドラッグして選択し①、[ルビ]ダイアログボックスを表示して、[ルビ]にルビをスペースで区切って入力します②。[プレビュー]にチェックを入れてプレビューすると③、親文字「装」よりルビ「しょう」が長い場合、親文字間が空いて見えます。



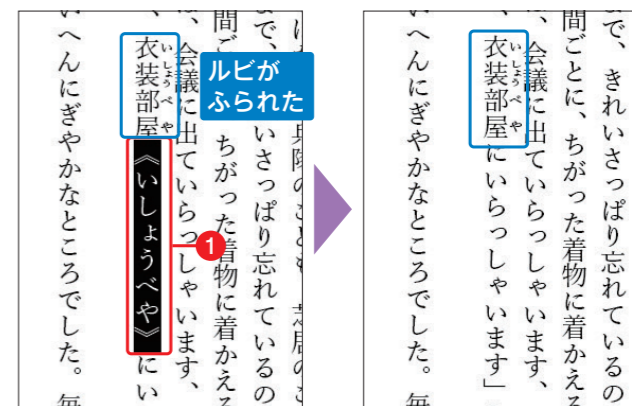
- 2 [ルビが親文字より長い時の調整]をクリックします①。[ルビの文字幅を自動的に縮小]にチェックを入れると②、指定値(初期値は66%)までルビの文字幅が調整されます。[OK]をクリックします③。



- 3 ルビがふられました。「《いしょうべや》」をドラッグして選択し①、削除します。

本章のテキスト内で、ほかにもルビをふる箇所がありますので、練習してみましょう。

ルビが不要になった場合は、親文字を選択し、[文字]パネルのパネルメニューを表示して[ルビ]→[なし]をクリックします。





# ファイルを収集しよう

データが完成したら、印刷所に渡す入稿用データを準備しましょう。  
パッケージの機能を使うと、必要なファイルを自動で収集します。

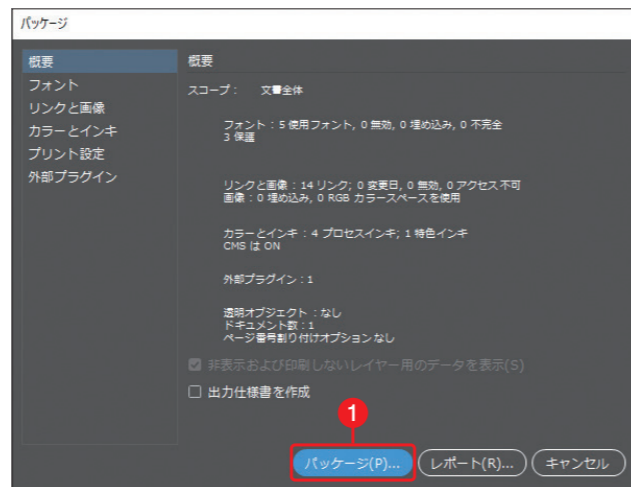
## パッケージでファイルを収集する

- 1 メニューバーの[ファイル]をクリックし  
①、[パッケージ]をクリックします②。

💡 収集前に、ファイルを保存しましょう。保存しないと、保存を促すダイアログボックスが表示されます。



- 2 [パッケージ] ダイアログボックスが表示されます。エラーがないことを確認し、[パッケージ]をクリックします①。



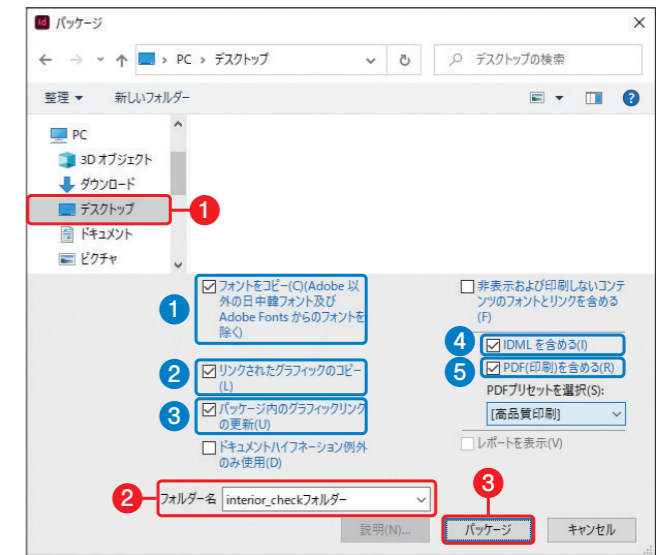
- 3 パッケージデータの収集先を指定し①、  
①～⑤の設定にチェックを入れます。  
[フォルダー名]を入力して(ここではその  
のまま)②、[パッケージ]をクリックし  
ます③。



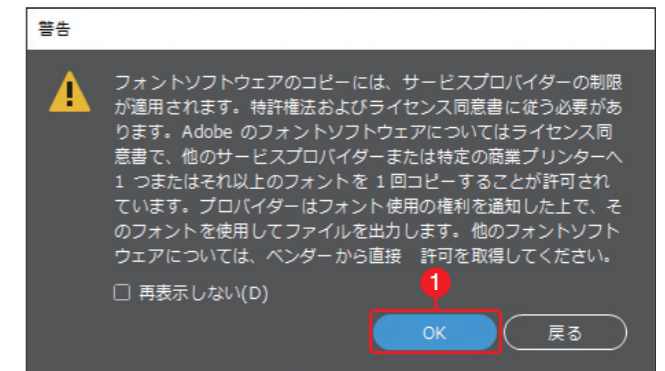
💡 [PDFプリセットを選択]では、事前にPDFを書き出した際に使用したプリセットが使用されます(62ページ参照)。パッケージする前に確認しておくによいでしょう。



💡 [フォルダー名]は、初期設定で作業中のINDD形式のファイルの名前の後に、「フォルダー」が付いた状態で表示されます。



- 4 フォントのコピーに関する警告が表示されるので、[OK]をクリックします①。



- 5 保存場所に収集されたフォルダを確認します。元データとは別に、入稿用データとして必要なファイル(①～⑤)が自動で収集されました。

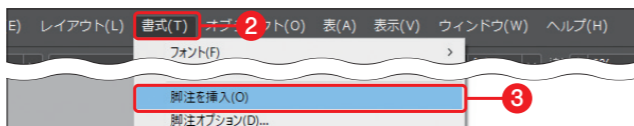
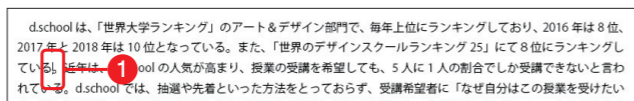


# 脚注を作成しよう

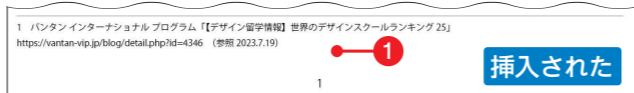
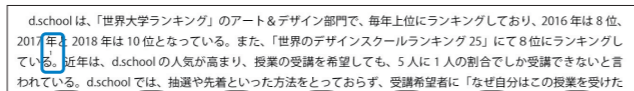
論文などで必要となる脚注を作成できます。  
ドキュメントの最後に後注として入れることもできます。

## 脚注を作成する

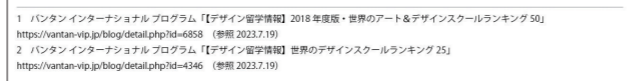
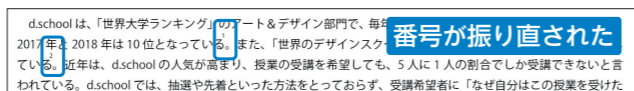
1 テキストフレーム内にカーソルを入れます①。メニューバーの【書式】をクリックし②、【脚注を挿入】をクリックします③。



2 ページの末尾に脚注が挿入されます。テキストを入力し①、【Esc】を押して完了します。



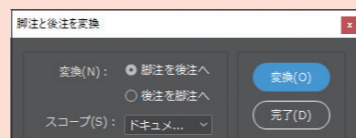
3 既存の脚注の前に、ほかの脚注を入れると、脚注番号は振り直されます。



💡 サンプルファイルのようにテキストにURLが含まれる場合、ハイパーリンク(296ページ参照)を設定すると、PDFに書き出した際に簡単にリンク先へアクセスできます。

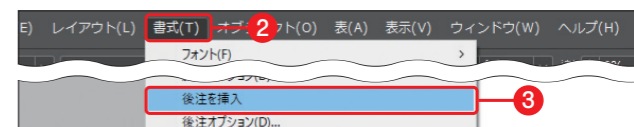
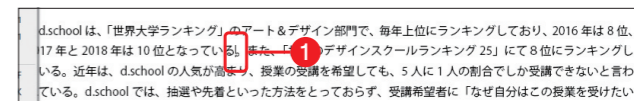
## 脚注と後注を交換する

メニューバーの【書式】をクリックし、【脚注と後注を交換する】をクリックすると表示される【脚注と後注を交換】ダイアログボックスで、脚注と後注を交換する設定ができます。



## 後注を作成する

1 テキストフレーム内にカーソルを入れます①。メニューバーの【書式】をクリックし②、【後注を挿入】をクリックします③。

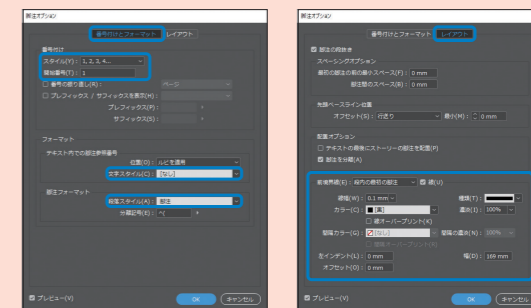


2 ドキュメントの最後にページが追加され、後注が作成されます。テキストを入力し①、【Esc】を押して完了します。脚注と同様、既存の後注の前に、ほかの後注を入れると、後注番号は振り直されます。



## 脚注オプション

メニューバーの【書式】をクリックし、【脚注オプション】をクリックすると表示される【脚注オプション】ダイアログボックスでは、脚注に関する設定ができます。【番号付けとフォーマット】タブをクリックし、【番号付け】の【スタイル】で脚注番号のスタイルを、【開始番号】で開始番号を設定します。【フォーマット】では、脚注番号に文字スタイル(86ページ参照)を指定したり、脚注に段落スタイル(82ページ参照)を指定したりできます。また、【レイアウト】タブをクリックし、脚注の前境界線の設定ができます。サンプルファイルでは、あらかじめ作成済みの段落スタイル【脚注】を適用しました。



## 後注オプション

メニューバーの【書式】をクリックし、【後注オプション】をクリックすると表示される【後注オプション】ダイアログボックスでは、後注に関する設定ができます。【後注ヘッダー】の【後注タイトル】で後注の冒頭につくタイトルを入力したり、【段落スタイル】でタイトルに適用する段落スタイルを設定できます。【後注フォーマット】の【段落スタイル】で後注に適用する段落スタイルを設定できます。サンプルファイルでは、あらかじめ作成済みの段落スタイル【本文】を適用しました。

